



学校だより “ 行きたい学校・帰りたい家・住みたい町 ”

# 上小岩



令和6年 4月26日

NO.2

江戸川区立上小岩小学校

校長 宮本 知司

## 令和の5年間、そしてこの先の5年間 いいことがいっぱいありますように！

校長 宮本 知司



書棚を整理していて、6年前の前任校の「PTA広報誌」が出てきました。平成31年3月の発行でしたので、このようなことを記していました。

この正月の戯言に、来るべき次の時代の名前を考えました。アルファベットの「M 明治」「T 大正」「S 昭和」「H 平成」は重複するので可能性が低いとの説もあり、ならば考えたのが「K」です。慶正、康安、啓明などと考えましたが、私は「光」の字が好きなので、光明（こうめい）元年と予想しました。書きやすく読みやすく、何よりも未来に向けた明るさを感じませんか。・・・

そして、卒業する6年生には「次の時代の名前に使われる漢字は何だろう？」と問いかけ(令和の「和」を見事に予想した子も2人いました！)たりもしました。予想の当たり外れはともかく、『将来に向けた明るい希望』を皆が心に抱いていた平成の終わり頃であったように思います。

当時の菅官房長官が「新しい年号は令和です」と大々的に発表をしたのが、5年前の4月1日、そして新たな「令和の時代」がスタートしたのが5月1日でした。言い方を替えれば、「令和の時代もちょうど5年間の節目を終える」というこの4月末となります。時代が変わる国の行事を行う関係で、4月末から5月にかけては「大連休」も生み出され、その中で「さあ、新しい時代はきっといいことがたくさんあるぞ！」と期待をして連休を過ごしたことも思い出します。ところが、その期待とは裏腹に、機を同じくして襲い掛かってきたコロナ禍によって、私たちは長き窮屈な時を経て、様々なものごと大きく変わっていく5年間となりました。

では、この先の5年間はようになっていくのでしょうか。ちょうど5年後の姿を考えると、この春に入学した1年生は最高学年として新しい1年生を迎えています。校舎の改築もすべてが2年前に終わり、ピカピカの新校舎と新校庭での生活を送っています。「苦あれば楽あり」「禍福は糾える縄の如し」「七転び八起き」「塞翁が馬」…と、古くからの言葉もたくさんありますが、人生の中ではいいことも悪いこともプラスもマイナスも必ず帳尻が合うようになっているなど、自らを省みても思います。学校生活でもようやく様々な窮屈さが薄れ、子供たちの歌声、元気な発言の声、そして毎朝交わす挨拶の声…と、どれもが元通りの「かみっ子らしい潑刺とした姿」となってきました。(コロナ禍前のかみっ子の姿を実は知らないのですが…)

昨年は、それぞれの自治会や町会のお祭りやラジオ体操、もちつきなどの楽しい行事も戻り、学校でも毎日の学習に加えて、ドルフィンクラブのプールでの水泳や体育学習発表会、展覧会と、新しい形で「子供たちが頑張る場」をたくさん用意してきました。できなかったこと、思うようにいかなかったことを取り戻す勢いで、子供たちの日々の学校生活を「今年も充実させていきたい！」と思います。「これから先の5年間は、きっといいことがたくさんあるはず」、そう信じてポジティブな気持ちで進んでいきたいものです。



どの学年の子供たちも、新しい年度になって張り切って生活をしてきました。清々しい初夏の風の中で、どうぞご家族そろって心も身体も開放できるような連休をお過ごしください。体育学習発表会に向けて動いていく5月は、ご家庭のバックアップもまた、よろしく願いいたします。

◀ 5月の全校道徳 ▶  
『友情・信頼』

友達と仲よくし、  
助け合う。

